



楽しく美しく老いる

1月30日(土)に梓川老人福祉センターと梓川公民館を会場に、第21回梓川女性フォーラムが開催されました。

梓川女性団体連絡協議会の主催で第21回梓川女性フォーラムが開催されました。朝方までの降雪で、足元が悪い中にもかかわらず、約90名の参加者で会場は賑わいました。



今回の講演では中田勝子先生を講師に招き、「楽しく美しく老いる」をテーマに、楽しい講話に交えて、参加者全員で歌ったり体操したりと、会場内は終始、笑いに溢れていました。

講演の中で、「楽しく」は自分で自分を楽しくすること、楽しい自分をつくること、「美しい」は人の内面の美しさ、一生懸命やっている



りのおにぎり、つきたてのお餅、具だくさんの豚汁や甘酒などのおいしい手作り料理が振る舞われ、また、地元産の米粉を使ったパンやワッフル、米麹などの販売も行われました。会場の一角には、梓川スィーツコンテスト入選作品の展示と、スィーツのレシピが用意され、レシピを求め多くの人が列をつくっていました。

前半の講演で笑って運動し、少しお腹が空いた後に美味しい料理を食べて、心と体を満たすイベントでした。

春の旅立ち



3月17日 小学校卒業式



3月16日 中学校卒業式

松本市公民館研究集会

2月14日(日)に松本市中央公民館(Mウイング)において、「地域を学びでつなぎ「暮らし」を創る」公民館の可能性」をテーマに、第31回松本市公民館研究集会が開催されました。

開会式典のなかで、長年公民館活動にご尽力いただいた方へ、公民館活動推進功労感謝状の贈呈式が行われ、梓川地区からは、島田昌世さん(上角)が受賞されました。島田さんは、平成17年度から22年

度までの6年間、梓川地区の館報委員を経験され、その後、25・26年度の2年間、全市版の館報編集委員として、合計8年間、公民館活動にご尽力いただきました。

当日の午後に行われた分科会では、梓川地区から選出の市民実行委員、地区民生児童委員の金井正治さん(杏)が第6分科会「地域での防災と福祉」の分科会長として、全市版館報編集委員の森鉄雄さん(上角)が第9分科会「公民館のあり方」の運営委員長として、それぞれの分科会の運営にご尽力いただきました。

りんごに花を彫る フルーツカービング教室

梓川公民館と梓川福祉ひろばの共催で、1月26日(火)、2月2日(火)、10日(水)の3日間、フルーツカービング教室(梓川のりんご編)を開催し、15人の方が参加されました。

フルーツカービングとは、果物や野菜に専用のナイフを使って、バラやダリアといった花などを彫刻していきま

す。参加者は、梓川名産のりんごを持参し、講師の上條恒嗣先生の指導のもと、りんごに花を彫ったり、白鳥を作ったりしました。

女性の参加者は、普段から包丁を使い慣れていることもあり、やはり早い! すんなりとカービングナイフを使い、さらにアレンジを入れてい



方もいました。男性参加者も、女性に負けず劣らず、とても繊細にカットし、美しい作品ができていました。

白鳥のカットでは、彫り方一つで様々な表情に変化し、可愛らしい白鳥や、美しい白鳥ができていたのが印象的でした。

フルーツカービング教室

1月17日(日)に、梓川地区ファミリースキー教室を野麦峠スキー場(松本市奈川)で開催し、18組42人の方が参加されました。

今年、全国各地のスキー場で雪不足が深刻な問題となつていますが、野麦峠スキー場でも雪が少なく、今回滑

走できたのは、中級者向けのコースでした。

それでも、講師の方々の指導のおかげで、大半の参加者がゲレンデを滑り降りてくることのでき、楽しいスキー教室になりました。



楽しい囲碁ボール&美味しい蕎麦会

上角町会

2月7日(日)上角集落センターにて、毎年恒例の「囲碁ボール&蕎麦会」が行われました。

は、7月の梓川地区スポーツ祭でお馴染みですが、元々は囲碁の町、兵庫県氷上郡柏原町(現在の丹波市)で誕生したレクリエーションです。ゲートボールに囲碁の面白さをプラスした誰もが簡単に楽しめるニュースポーツで、いつでもどこでも場所を取らず、子どもからお年寄りまで年齢や性別、体力などを問わずに、みんな楽しんでスポーツです。

今回囲碁ボールに集まったのは12人でした。初めて囲碁



ボールを体験した、小学生の菅原君は「入りそうでも坂が邪魔で入らないけど、面白かった。」と時間のある限り、何回もプレーして、段々とコツをつかみ上手になっていました。

その後行われた蕎麦会は、今年で18回目。60人ほどの参加者が集まりました。講師の森鉄雄さんは蕎麦打ち25年のベテランです。「蕎麦は水回しが一番大事、そこで美味しさが決まる。」と慣れた手つきで打っていました。

今回の蕎麦は、蕎麦粉とつなぎの比率は五対一で、蕎麦粉を多くしたこだわりの蕎麦でした。

最後に、蕎麦と

寒さが増す頃になると、心に残っている思い出がある。小学生の時に小室にあったスケート場へ通ったことである。今ではなかなか温かい床から出ることができない。いるが、子どもの頃は寒さを気にせず、早朝飛び起き、朝食も急いでほうばりながら集合場所に行き、長い路も気にせず小室のスケートリンクに向かった。心わくわくする思いでリンクを滑り、冷たかった手足も友と競っているうちに帽子も取りなくなるほど温かくなった。年少の子が転んで泣いていたら、年長の子が優しく手を差し伸べてくれ、スケート靴も履くのもままならず泣いている子どもたちも、年長の子が面倒を見てくれ、優しさに感謝する心も芽ばえた。毎晩、父母たちがリンクに水を撒き、整備してくれたことに今、本当に感謝の想いである。この時、習い学び経験したことは、今となってはかけがえのない思い出であり、恵まれた地に育ったことに、しみじみありがたいと思う気持ちである。

雑記帳

